

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0173600776		
法人名	株式会社健康会		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	北海道苫小牧市ときわ町3丁目4番1号		
自己評価作成日	2022/2/19	評価結果市町村受理日	令和4年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0173600776-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在コロナ禍の為自粛しているが、地域の方々との関わりを大切にし町内会の集まりへの参加やホームでの催し物への町内、近隣住民の参加に加えボランティアの方々への参加をお願いし皆様が楽しく過ごしていただけるように取り組んでいます。毎月の行事においては季節の行事や外出する機会を設けることを意識し入居者の方々に楽しみをもって過ごしていただけるよう心がけております。長く入居されている方が多くなり入居者様の高齢化や介護量の増加に伴いご家族や医療機関と連携をとり看取りケアも行わせていただいております。職員は入居者様第一の考えを実践しできることを共に行うことで入居者様に生きがいを持って生活していただき明るく家庭的な雰囲気作りにも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、苫小牧市の西方向にある閑静な住宅地に位置しており、2階建て2ユニットのグループホームである。道央自動車道苫小牧西インターや国道36号線からも近く、利便性のよい地区である。法人は、医療法人を母体として、認知症高齢者グループホームを始め、訪問介護、通所介護、訪問看護、医療系有料老人ホームなどを旭川市を中心に札幌や道内、首都圏で運営しており、高齢者介護に積極的な支援をしている。当事業所は、町内会等の地域の関わりを大切にしているが、新型コロナウイルス感染症対策の為、地域の交流を自粛している。隣接する他の事業所と行事などで連携しているが、感染症が落ち着き次第地域との交流を再開していく予定である。笑顔で賑やかなホームで、認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	わかりやすいホームリビング内に事業所理念を掲示し、管理者、職員はその理念を共有し実践につなげる努力をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により自粛しており地域との交流は行っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により未実施だが、内部での研修は行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により書面のみでの実施		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍により密な取り組みは行っていないが、協力関係にはある。市町村職員との連絡は管理職が行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月に一回開催し、身体拘束がどのような物か、またどのような弊害を入居者様にもたらすのかを繰り返し勉強している。拘束にならない様介護方法を話し合い転倒防止の為にセンサー使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて勉強会を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在外部研修には参加出来ておらず、以前の資料で認識はしているが現利用者様で制度対象者がおらず実施には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者・計画作成担当者二名にてご家族様と入居者様への説明を行っている。又変更点等があった際には別紙等を準備。その都度説明と了承を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話対応時に話しやすい雰囲気作りに努めている。又玄関には意見箱を設置し匿名での意見もして頂けるようにしている。入居者様には常に声をかけ要望を引き出す努力をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や会議の場はもちろん、個人でも話しやすい環境作りに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者との面談、会社の評価制度に基づき職員のモチベーションを確認しながら働く事のできる環境作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育に関し、会社として教育システムを構築し実施している。当ホームでは新人教育の際に活用実績あり。外部研修への参加は自粛しているが法人内でのweb研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ禍により自粛している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	直近二年間で新規入居は無い為行っていないが新規入居の際にはセンター方式を活用し家族からの聞き取りや実際にご本人様と面談を行う機会を設け関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	定期的に当ホームは入居者様の生活の場で一緒に生活をさせてもらい出来ない部分のお手伝いを行う場だと皆で話し合い共通の認識としている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回発行のしらかば通信やお手紙、お電話などにてホームでの様子の報告や往診、受診時の連絡を行っておりご家族様にもご協力頂けるような体制作りにも努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外出や面会は自粛している。ホームだよりや手紙、電話などで様子をお伝えし話が出来る場合には電話でお話されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で職員が間に入り関わりあいをもつよう促したりレクや行事を積極的に企画、開催している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も御自宅の衣類を持ってきてくださったりといった関係性はあるが経過のフォロー、相談に至るケースはなし。退去後も情報開示できるように記録類は2年間保存している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月ごとにケアプランを更新し意向を傾聴してなるべく組みとりたいとは思っているが入居者様の状態変化に対応しきれない面もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、御家族、他事業所からの情報を基にセンター方式シートを作成し、これまでの生活を把握し継続した生活を送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活シートや連絡ノート、ケアノートに詳細に記入する事で情報を共有し統一したケアができるよう努めている。朝のバイタル測定によりその日の体調等を把握し健康に一日が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開催し担当職員2名がモニタリングを行い他職員から幅広く意見を求めている。その後、計画作成担当者によるモニタリングを行いプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに詳細に記入し気づきや工夫する点は連絡ノートやケアノートに記載することで問題提起やケアの実践、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	具体的に新たな取り組みは行っていないが常に何か出来ないかという意識は持って支援にあたっている。買い物や通院等家族が対応出来ない所の支援は行えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域資源、外部行事への参加は行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を確認し往診を受けられる方やかかりつけ医への受診対応を御家族がおこなったりしている。往診される方へは御家族に対し文書や口頭にて内容を報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を利用し入居者様の健康状態の把握を行っている。また、同事業所の訪問看護ステーション管理者に協力を仰ぎ24時間医療についての相談ができるシステムを構築している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの日常生活動作等をすぐに報告できるよう常に情報開示できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	リビングウィルの活用により入居者様、御家族の意向を把握しターミナルケアへの対応を行っている。が職員の経験不足を補うため、知識向上、不安解消に向け研修会を行い独自のマニュアルを作成している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍により外部研修・訓練などは自粛しているが内部研修にて実施している。救急時などのマニュアルは壁に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年3回行っている。地震、水害、津波についてはしっかりとマニュアル作りと訓練をする必要がある。また、避難用常備袋を設置し賞味期限などのチェックを衣定期的に行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門職としてふさわしい適切な言葉遣いを意識しているがまだまだ改善すべき所も多く自信を振り返り至らない所を正す努力をしている。また接遇や職場のコミュニケーション技術等の内部やウェブ研修を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定できるよう支援している。思いを伝えられない方は表情やしぐさ等から察し思いに寄り添うよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活リズムを崩さず個々のペースを大切にしながら支援する事を念頭に置いているが、人手不足等業務優先になることもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容を利用している。誰でも使えるようにブラシや寝癖直し等常備しているが使われる方は1名から2名程で他職員が行っている。洋服もご自分で選ばれない方は職員が選んでいるが外出や行事などの時は違う洋服にしたり女性らしいよう配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前のように季節感を感じるメニューは無く「いつも同じだね」と話す方もいるが美味しく召し上がって頂くよう工夫し提供している。正月や月に1回は職員がメニューを考え利用者のお好きな物を提供している。出来る方には盛り付けや食器拭き等職員と一緒に行って頂いてる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は生活シートに記載し把握している。状況に合わせて食事の形態を変えたり水分も好みの物や甘くする等味を変え提供。脱水、低栄養にならないよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時にできる方は声掛けし行って頂き、磨き残しやできない方は、職員が介助している。また歯ブラシ使用が困難な方は歯磨きティッシュを使用し口腔内の清潔保持を行っている。義歯は、夜間お預かりしポリドント使用し消毒している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状況は生活シートに記入。一人ひとりの状況に応じ声掛け、誘導、見守り、介助を行い自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳、昼食後にヨーグルトを提供。毎日行う食前体操や個々に歩行等運動を声掛け便秘の予防、解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回から3回のペースで入浴して頂いている。その日の体調の確認と拒否のある方は時間や日をずらし気持ちよく入浴されるよう配慮している。男性スタッフを拒否されている方はスタッフを女性に変え対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々にお好きなように生活されている。定期的によりン交換行い清潔を保持し、良眠に繋がるよう支援している。介助が必要な方も定時の休息時間を作っているが脱力感、傾眠が見られた時は居室にお連れし休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は最新の物をすぐ読めるようにしてある。薬袋を色分けし薬箱から出す時、服用時、服用後の空袋の確認と服用後の口腔内の確認も行っている。新しい薬が処方になった時はノートにも記入し全職員に周知し状態を観察している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの出来ることを把握した上で強要すること無く生活の中で楽しみながら出来ることを行って頂いている。お正月などにビールを飲みたいと言われる方には提供している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出自粛中 近所への散歩などを行い気分転換が少しでも出来るよう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により外出自粛中の為買い物へ出られていない。購入品の希望があれば職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様からの電話に出たり贈り物があつた時はこちらからお礼の電話をかけご本人に変わってお話して頂く等対応行っている。定期的にはハガキがくる方には読んで差し上げた後居室のファイルいつでもみられるようにしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを行い季節感を感じながら心地良く過ごせるよう配慮している。加湿器や保湿タオルで湿度、温度管理も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好みの場所で過ごしていただけるよう配慮している。お一人での入居者同士が気がねせずリラックスした雰囲気の中で過ごせることの出来る空間を作るよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に納まる範囲で馴染みの物や好みのものを持ち込んで頂き、居心地良く安心して生活が出来るようにしているが安全には配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレには表札、お風呂にはのれんをかけ入居者様にもわかりやすい仕様になっている。危険と予測されるものを排除し安全に生活が出来るよう環境作りを心がけている。		